

## ワークキャンプに参加して



県立松山東高等学校

森本幸樹

ワークキャンプに参加するのは、今回で二回目になります。昨年は「持養」へ行かせていただき、今年は「三恵ホーム」へ行きました。

二つに異なった種別の施設でのワークキャンプに参加して、自分なりに感じた事は、表現の仕方に問題があるかも知れませんが、老人施設に比べて、三恵ホームでの活動は一言でいうと「楽しかった」という印象がありました。

その理由として、一番大きかったのは、利用者の皆さんがよく話しかけてくれた事だと思います。僕としては、期間中に名前を覚えてもらえるくらいになれば大成功だなという程度に考えていたのですが、三恵ホームでは初日から、たくさんの人に話しかけてもらえて、しかも名前もしっかり覚えてもらえたことがとてもうれしかったです。

その他、車椅子の体験では利用者の方と競争したりとても楽しい時間を過ごすこともできました。(写真)

ワークキャンプの本来の目的とは少しずれていくかも知れませんが、今回は、とても楽しく過ごすことができたと同時に、自分の中で障害者に対するイメージが少し変わったような気がしました。このことは自分の将来に何らかの形で役に立つことだと思います。

三恵ホームの皆さん本当にありがとうございました。また何かあったら是非呼んで下さい。遊びに行きます。

ワークキャンプとは、社会福祉施設での体験活動を通じて、社会福祉への理解と関心を高め、ボランティア活動の普及、促進を図ることを目的にしたものです。



## 三恵ホームに来て



特別養護老人ホーム角野荘

生活指導員 真木新

三恵ホームの研修は今回が二回目です。学生の頃のように前日は何だか落ち着かず、この一ヶ月間大丈夫だろうか、自分はやるのか自問自答の一晚でした。そもそも研修のきっかけは角野荘の移転に伴うもので、身体障害者療護施設「あゆみ苑」の指導員として選ばれたのが今回のいきさつでした。定員二〇名とはいえ新規事業の一部分を任せられることはありがたい反面、責任という言葉が自分に押し掛かっていることを実感しています。

この研修で学んだことを新しい施設でも生かせるようにできるだけ多くの情報と知識を身に付けようと考えていたのですが、考えれば考えるほど自分自身に疑問と焦りが生じてきました。そんな気持ちのまま数日間を過ごしている時に、利用者の方が「一ヶ月間でも一日でもあなたはここの職員に出会えたことが、あなたのこれからのかけがえのない財産なんよ。」と言葉を掛けられ救われたことを覚えています。

私の三恵ホームのイメージですが、「先駆者」と言えるのではないのでしょうか。個人に対しての考え方の姿勢、自治会活動などどれも質が高く、利用者の組織意識の高さには本当に驚きました。三恵ホームで研修したことを誇りに感じます。

前述の言葉ではありませんが、私にとって、この一ヶ月間は大切な財産です。利用者の皆様にはご迷惑をおかけしましたが、貴重な時間を過ごせることができました。これからは新しい施設に向け、取り組みたいと思います。皆様お体には充分気を付けてお過ごし下さい。